

東社協
保育部会

NO.436

2024.10
OCTOBER

通信

とうしゃきょうほいくぶかい・つうしん



「町のおまわりさん」
至誠あずま保育園(日野市) 5歳児の作品

特集

椎の実子供の家
職員の想いが形になった保育園

2

- 地区だより「給食」
社会福祉法人 育和会 とちの木保育園(中野区)…… 8
墨田区子ども・子育て支援部子ども施設課(墨田区)…… 10
- お知らせ …………… 12
- 編集雑感 …………… 12

ワークショップで職員も主体的に

柴田…この保育園が開園したのは50年以上前ですが、当時としては鉄筋コンクリートで冷暖房がついているというどこにもないような良い保育環境でした。しかし、子どもの定員も増えたことで色々な問題が出てきたため、それを機に建て替えることになったのです。2015年に保育園の建て替えを検討するためのプロジェクトチームを作って、職員には全国や海外の先進的な保育園へ見学に行ってもらいました。建物ありきの保育ではなく、「こういう保育をしたいからこういう保育園がいい」ということを考えてもらいたい思いから議論を重ね、2018年には構想を3つにまとめました。建てかえ構想をもとに職員でワークショップを開催し、施設配置などの希望を出し合い、基本計画、基本設計をまとめて実施設計へと進んでいきました。その中で、我々が求める保育をどういうふう具体的にしていくかという点で渡辺さんの事務所を評価をしたということです。特にモンテッソーリ教育を推進する保育園などもやっていらつしやっ

たので、そういう点で選びました。普通に保育園を建てていくと、保育者の皆さんは完成した後になんかやって使うかというところしか考へることができないというのがほとんどだと思えます。しかし、このように建てる前に自分たちの意見を反映していくと、これは自分たちがつくった保育園だとそこに想いがこもるので、非常に愛着が生まれるんですね。この保育園ですつと勤めたいというそういう思いにも繋がることを感じます。

石橋…建物に私が関わるのはこの2、3年です。前任者の箕輪が力を注いで、このような形になりました。まず広い土地があるということ、建物を大きくゆとりを持ったスペースになるようにという願いが保育士にはありました。



園庭も子どもたちが安全に思う存分に体を動かせる場所として、遊びの中から育つものを考えながら、固定遊具の選定や設置場所をワークショップで話し合いを何度も重ねていきました。そうすることで、乳児と幼児で遊び場所を区分けをしたり、時間を決めたりすることなく、自然な形で遊びながら交流する姿も見られます。幼児に関しては部屋が広いことから、まずは子どもたちが新しい環境に慣れ親しむという考えで、最初のうちはテーブルや観葉植物で部屋をやりわりと区切っておりました。広い空間に慣れてきたのを機に、壁際に設置しておいた棚を利用してモンテッソーリ教育の分野別に部屋を区切っていきました。そうすることで、いつも決まった場所に知っているものがあり、安心して過ごせる環境となったようです。まだまだ改良できることに職員が気づき始め、そこに楽しさを感じられるようになってきました。職員が変わったから子どもが変わっていったのか、その逆なのかは分かりませんが、建物から脱マンネリのチャンスを得たのだと思いい、職員の变化や子どもの変化が止まらないのを感じる日々です。

保育園に生きるドイツのノウハウ

渡辺…この設計には私に関わる前から同じ研究室の後輩である早稲田大学の佐藤将之先生が関わっていました。前任の箕輪園長先生とあるシンポジウムで佐藤先生のことを気に入って、自らお願いしたことで始まったそうです。プロポーザルに参加してほしいという申し入れがあつて、選ばれてみたら佐藤先生が関わっていました。トイレの位置がかなり議論されて、前任の理事長先生のトイレは固めておけばいいという意見と、職員側のそれだと子どもの付き添いが大変になってしまふという意見が割れていましたが、最終





的には小さなトイレを付けることになったんです。建物を見ていただくとガラスが多いことに気付くと思いますが、私たちは隣の部屋を見せるか見せないかということろをすごく気にしています。極端な話、保育室が個室化してしまうと保育士さんによる体罰が起こりやすくなったり、事務室が狭いといじめの原因になったりしてしまうというのが社会心理学の世界では報告されているからです。それから、保育士さんは新任の先生も結構多いので、助けてもらいたい時に助けてあげられる環境が良いというのは社会学の方でも最近では言われるようになりました。そこからかなり論議されて、上の方はガラスになっけていて保育者同士は

隣の保育室が見える一方で、子ども同士は隣の様子が分からないような設計になっています。私はもととは都市計画の専門ですが、鈴木平三郎さんという方はかなり面白い政策をやらせていました。例えば、駅前の再開発といえは普通は商業者がいきり立つような世界ですが、鈴木市長はそれをいきなり森にするという出して、商店街長とえらく喧嘩したそうです。後に三鷹市の坂地にある木は切つてはいけないという条例を作ったことで現在この辺は森が多く残っています。ドイツでも森が都市計画上の一つのテーマになっています。建て替えの時に仮園舎を作った結果、すごくいい空間なので残



そうという話がありました。先進的なことをやろうと色々話し合っで盛り上がったのですが、理事長先生の「森に戻したい」という一言でやっぱり壊すことになってしまいました。創設者の市長さんがおられて、色々海外を視察してやってきたわけです。奇しくも佐藤先生も結構留学していました。ドイツの保育園などを見てきて、最新の情報も入れてくれたんですね。例えばはこの保育室の天井は全て吸音材を使っています。これは私もよく使っています。これは似ている吸音材ではないものがあるんです。特に目地がついているものはジプトーンと言って、模様は似せていますが硬い素材で作られていて吸音材ではありません。音が響いてしまうと子どもたちのテンションも上がってしまう、騒いでしまうということが言われています。吸音材があるかないかで、子どもたちの姿が全く違ってくるそうです。それが今のドイツでは一番重要視されていて、保育園を次々と改修して吸音材を張り付けているらしいです。奇しくも市長さんからも、今に至るまでドイツのノウハウというものは随分取り入れているのではないのでしょうか。



子どもや保護者に 第三の居場所を

柴田…さらには大沢地域包括支援センターの方々と保育園の職員でプロジェクトチームを編成し、地域交流スペースという公益事業計画の検討を始めました。もともと星の館という保育園内にあるプラネタリウムで親子広場というものはやっていたんです。地域の子育て世代のための居場所ということで、週に1日開催して、園庭も開放するというようなことをやりました。その時から保護者の方々が集って話をしたり、食事をしたりできるような場所がほしいという声があつて、建て替えを機に常設しよう





いうことになりました。2019年の9月末には中間報告、12月1日には提案を受けました。それだけでなく、佐藤先生や堀越助手さんからも公益事業における先進事例の紹介を受けながら、最終的に12月末にプロジェクトチームの報告をもらいました。法人としては地域のためになる施設、地域交流スペースという発想を職員に投げかけ、具体的にどういうものを作るかは職員の皆さんに提案してもらおうという形で進めていきました。一つは地域の皆さんが気軽に交流できる場所にしたいという思いから、駄菓子屋を作った子どもたちが来やすくて良いのではないかという提案が職員から



ありました。この地域は本当にお店がないのでそれは喜ばれるだろうと考え、これらの意見を取り入れながら地域公益事業として具体化していきました。最初は東京都福祉保健財団の事業として運営していこうと思っていたのですが、こちらは落選してしまいました。日本財団の子ども第三の居場所の補助事業として申請し、こちらで採択されました。最初のうちは交流スペースを週に3日開いて様子を見ながら始めましたが、今では子どもたち、小中学生だけではなく、保護者の方々の居場所になっています。子育ての悩みは色々あるものですが、特に小学校へ行く前は学校のことを誰かに聞きたくても、近所に知り合いがいなくて教えてもらうこともできないというのはよくあることです。しかし、保育園の帰りに交流スペースへ寄れば、小学生の子どもを持つ保護者の方々がよく来ています。どこかへ相談に行かなくても、そういうことを世間話の中で自然と話せるんですね。そういう点で、子どもの居場所であり、地域の子育て家庭の居場所になっているというのが地域

交流スペースの大きな特徴かと思えます。建て替えは7年がかりでやりましたが、時間をかけたのは決して無駄にならなかったということをすごく実感しています。職員がどれだけの愛着と気持ちを持ってここで保育に当たれるかということが大切なのではないでしょうか。

吹き抜けから生まれる 上下のコミュニケーション

渡辺…増設した建物は全部木造ですが、もともとの建物と繋いで

いて耐火構造にしないとけないため21ミリの強化石膏ボードを2枚張りしています。それに木模様を貼り、窓枠などの内装はなるべく杉板を使って仕上げています。2階の遊戯室から1階のホールが吹き抜けで見えるようになっているのは佐藤先生がかなり注目した場所、下と上の子どもたちがやり取りしている姿を見ることができません。

石橋…卒園した小学生の子なんかも手を振ってくれますね。乳児さんは普通見上げるといふ動作をあまりしないと思うのですが、





ここからだとはよく見てくれます。よく気が付くなと思いますね。0歳児クラスの子やあまり笑わない子がこんなところから笑うのかと感じます。遊戯室で午睡をしていて、コットベッドにいられない子が吹き抜けの窓枠の隅で自分で気持ちを整えるという、なぜかそういうスペースになっていませぬ。遊戯室は幼児が午睡や外部講師による体操、リトミックなどに使っています。

渡辺..床の下にはクッションが入っていて、転んでも痛くないようになっていています。そして、1階のホールに当たる場所は実はプロポーザル後は外部空間でした。屋根はあるけれども、外部空間としてやっ

ていたんですけれども、内部化したいという要求が高まって、こんな大きな空間になりました。やはり寝るところや食べる場所を別に作ると移行がすごくスムーズです。食べるのが遅い子もいるし、場合によってはセッティングするのにみんな立って待っているというような余計な手間も生じません。

石橋..ちなみに1階のホールは基本的に乳児が使っています。全員で集まる誕生会や、発表会、卒園式のような大きな行事でも使っています。

◆自然◆をヒントに
保育園に空気の流れを作る

渡辺..我々の設計は窓が非常に特徴的です。保育施設には排煙窓が必要なので、普通はボタン一つでボタンと開く排煙窓と名付けられたものをみんな使います。排煙窓は網戸が付けれられないだけでなく、換気用の窓でもありません。勢いよく開いてしまうのでワイヤーが壊れやすく、普段から開け閉めするような想定で作られていないんです。そのため、古い保育園なんかは匂いがこもっていても換気できません。この保育園で使っている

ルーバー窓は換気用に作られている窓で、簡単に開け閉めできるだけでなく、窓を開けても雨が入ってこない仕組みになっています。それでももって安いです。だから、コロナウイルスが流行した時は換気しやすいと好評でした。規定だと排煙窓は操作盤が1.6メートル以下であれば良いと書いてあるのですが、みんなボタンで開ける必要があると思っているんですね。この窓を排煙窓として使っても良いと知っている設計者がいないんです。多分これを使っているのは我々だけだと思います。ガラスについても頭蓋骨より強い強化ガラスを使い、シートを貼っているため災害時も心配ありません。さらに割れて落ちるような関係であるところは、中にシートの入った合わせガラ



スを使っています。また、ガラスだと光がよく入ることから夏場に気温が上がりがやすくなりますが、保育室は高い場所に窓をとってそこから自然換気で熱を捨てる仕組みになっています。また、廊下についても欄間から同じように熱を外へ出しています。現在、ほとんどの建物というのは100入ってきた熱を冷房で100全て冷やさないといけない仕組みになっています。しかし、入ってきた熱を高いところから捨てるようにすると、90%くらいは出ていきます。そのため、我々の設計では天井を高くしてあつて欄間も開くようになっていきます。夏は南からの風が入ってきますが、冬は北側から季節風が吹くので、なるべく南から入ってきて前に抜けるようにしています。日





本の里山建築というのは、森があつて縁側があるんです。森はほとんどん水分を蒸発させるので、すごく温度が低くなります。例えば、夏はアスファルトの表面が70度を超えてしましますが、森の木の下だと30度を切るんです。温度差が40度もあるんですよ。だから、庭を南側にして池を作つて、その冷気を入れるために空気の通り道を最大限開けていたのは正解だと思ひます。今は庭も庇も全部無くなつたので、これはもうとつてもない暑さになるわけです。現在ホールと下になっている空間も最初はそのように庇とすることで、外部空間になつていてものの日陰になつていて使いやすい園庭にするつもりでしたが、内部



空間にしたいということと庇の先に外壁を作つたため、庇がなくなつてしまいました。

柴田.. それでも規模が半分である第二椎の実子供の家よりも電気代が安く済んでいるんですよ。

渡辺.. 本当は24時間冷暖房システムを取り入れて、夏は28度、冬は20度に設定するともっと電気代が安くなると思います。

柴田.. 本当に木が鬱蒼としていますからね。渡辺さんには風が通り抜けるような保育園にしても良かったんです。24時間冷暖房システムを取り入れることも検討しましたが、近所にマンションがあつて室外機の音が夜中まで音が鳴っているとまずいのでやめてしまいました。

渡辺.. 我々は空調機にリミッターをかけて、一度に多くの電力が消費されないようにしています。今の冷暖房は効率よくできている一方で、パワーが出るようになっていくんです。例えば、電源を入れてすぐの時は130%も出ていて、その時に基本料金が上がつてしまふんです。それに電子ブレーカーというという機械を使つてリミッターをかけています。それで契約料金をすごく下げることができるとは、それを使つて24時間冷暖房システムを回すと本当に省エネかつ低コストで済むということを提唱しています。既存の建物も改修して、3階にあつた休憩室を2階へ移動しました。もともと休憩室はほとんど使われていませんでしたが、ここへ移動してから休憩室で休むようになったそうです。男性更衣室もロッカーも設けられました。休憩室というのは重要で、休憩室がないとストレスがたまつて離職率が高くなるという統計があるくらいです。

柴田.. この保育園は高射砲陣地跡地で今も高射砲の台座が4基残っています。この土地を鈴木市長が所有していたのは、「戦争遺跡が失われることのないように誰か保存



してくる人を探してほしい」と頼まれたことで、市長自身が便利だった三鷹の駅前から瓦礫の山になっていたこの場所を買つて移り住んできた経緯がありました。園庭には平和を祈念する碑が建ててあります。ここでは3人の兵隊が米軍との戦闘で亡くなっていますから、2月17日と8月15日は子どもたちも参加して平和記念の集いを毎年行つて平和学習をやっています。子どもたちも戦争の話も聞かなくていいかなイメーヂが湧かないでしょう。しかし、ここに大砲があつて飛行機と撃ち合いをして兵隊さんが亡くなつたというところ、子どもなりにイメーヂができると思ひます。そのため、これらを全て大事に残して建物が配置されているのです。

